

## 令和7年度 秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会 議事要旨

- 1 日 時 令和8年3月5日(木) 14時00分～15時30分
- 2 実施方法 オンライン
- 3 出席委員 別紙出席者名簿のとおり
- 4 議 事
  - (1) 報告 令和7年度歯科保健対策施策の実施状況について
  - (2) 議題 令和8年度歯科保健事業(案)について
  - (3) その他

### 5 議事概要

- (1) あいさつ(鎌田政策監)
- (2) 報告・議題(○…各委員、●…事務局)  
(畠山分科会長の進行により議事を開始した。)

#### 【報告】

事務局から令和7年度歯科保健対策施策の実施状況について資料1により説明

- 「よい歯の幼稚園・保育所・学校表彰」について、最近、応募数が非常に少ない状況にあるが、小中学校現場の状況はどうか。(畠山分科会長)
- 現場では多種多様なコンクールがあり、呼びかけは各校で行っているが、時期や教育課程との兼ね合いで動きにくい部分はある。しかし、歯の大切さを教える教育自体はどの学校でも実施しており、今後も啓発を続けていくことは可能である。(安田委員)
- 保育現場での受け止めはどうか。(畠山分科会長)
- 保育園等でも日々の保育が最優先であり、コンクールの事務手続きまで手が回らないのが実状だが、日常的にこどもたちの歯の様子は見守っており、先生と一緒に大切さは伝えている。(石井委員)
- オーラルフレイルに関して、医科側での試みや連携状況はどうか。(畠山分科会長)
- 県医師会としては、県医師会が主体というより、歯科医師会の先生方と連携を密にし、顎関節症等の勉強会を行っている。紹介がスムーズにいくような連携体制を整えているところである。(藤枝委員)
- フレイルについては栄養が大事であると考えているが、どうか。(畠山分科会長)
- 栄養士会としては栄養と口腔はセットと考えている。施設内で口腔機能維持に取り組める人材を育成できれば、食事の面での向上や、誤嚥等の事故防止に繋がると考えている。(船木委員)
- 歯科医師会としては、どうか。(畠山分科会長)
- 歯科医師の間でも、オーラルフレイルに対する理解度や解像度にはまだ温度差がある。保険改定に合わせて改めて勉強し直す必要がある。(武田委員)

- 現状、歯科医師側に理解度や解像度の温度差は確かにある。これは、オーラルフレイルだけでなく、施設や周術期管理に関しても同様である。そこで、歯科専門職が施設や周術期管理の現場に積極的に出ていく意識を持つべきである。本来は国がもう少し規則としてやるべきであるが、いずれにせよ、専門職としての自意識を上げることが大切である。高齢社会において認知症等の方は必ず外来に来られるので、病気を持つ方の健康をどう担うか、常に考える必要がある。(藤原委員)
- 周術期や医科歯科連携の現状について病院歯科としてはどうか。(畠山分科会長)
- 病院歯科では、周術期対応についてかなりの件数をこなしているが、開業医では紹介数増加には至っていないようである。病院で手術前後の管理を行っている医師は歯科の重要性を認識してきているので、歯科医師会や病院歯科と連携し、システムティックに考える必要がある。同様に、骨粗鬆症についても投薬前の口腔確認と歯科治療が重要であり、これは医師側、歯科医師側の双方で啓蒙活動を続けていく必要がある。(高野委員)
- 認知症に関してはどうか。(畠山分科会長)
- 先月、医師会と歯科医師会で勉強会を行った。内容としては、認知症の患者を歯科医が診るときの注意点などであったが、話の中心としては、連携を密にして互いの得意な分野を勉強し合うというものであった。これまで認知症とフレイルがなかなか繋がっていなかったのも、医科の方でもオーラルフレイルを勉強していきたい。(藤枝委員)
- 災害支援の取り組みについてはどうか。(畠山分科会長)
- 災害時の支援のあり方は、今とても重要視されているところで、特に避難所における生活水準の維持がその後の健康管理に大きく影響する。避難所生活の長期化において、口腔衛生管理はQOLに強く影響する。普段から口腔ケアを重視する必要がある方々にとっては、これまで盲点だった面もあり、着実に進める必要がある。(須田委員)
- 先日、(県事業の)災害歯科保健医療研修会に参加し、災害関連死の中で肺炎に関連する方が非常に多いというのが印象的であった。口腔ケアが避難所でも当たり前の習慣として浸透することに期待する。(成田委員)
- 肺炎にさせない手順を構築し、専門職としての自意識を上げることが大切である。災害看護師と同様に「災害支援歯科衛生士」のような制度ができることを期待している。(藤原委員)

## 【議題】

事務局から令和8年度歯科保健事業(案)について資料2により説明

- 表彰事業について、意見はあるか。(畠山分科会長)
- 1歳半や3歳児の「集団健診」の場を活用し、保護者世代へ直接大切さを伝える機会を増やせば、コンクールなどの啓発事業にも繋がっていくと考える。(石井委員)

- 次年度計画の話ではないが、5歳児健診の際に、むし歯以外で、こどもたちの食事の様子や発育について確認できることはあるか。(畠山分科会長)
- 5歳児健診の研修を受けたが、発達障害などが感じられるこどもにおいても食べる機能や口腔ケアが不足しているとは感じなかったが、近年のこどもたちの食生活の乱れ、特におやつ中心の食生活が気になった。今後、咀嚼能力の低下が将来の発育に影響しないか強く危惧している。(石井委員)
- 栄養についてはどうか。(畠山分科会長)
- 人生の最期まで口から食事できるようにするためには口腔ケアが大事であり、安全な食事提供のため歯科と協力して、施設における経口維持加算や経口移行加算等の取得にも繋げたい。(船木委員)
- 教育現場の視点ではどうか。(畠山分科会長)
- 学校での啓発は、なぜそれが体に良いのか、を伝えることが重要である。給食での食育を通じ、「よく噛んでバランスよく食べる」教育が家庭への啓発に繋がるサイクルの構築を目指したい。(安田委員)
- 県の口腔保健支援センターの市町村への情報提供はどのようなものか。(畠山分科会長)
- 歯科保健に関する最新の知見については、その都度、情報提供している。その他、市町村側からの照会に対応している。(田代主任)
- 施設や在宅での取り組みについてはどうか。(畠山分科会長)
- 施設については口腔ケアの義務化により現場の意識が高まっている。一方で、在宅高齢者の口腔ケアが空白地帯になりがちである。介護支援専門員との連携を深め、在宅にも目を配る体制が必要である。(須田委員)
- 県の取組としてはどうか。(畠山分科会長)
- 次年度の研修会については、秋田県介護支援専門員協会ともよく協議し、介護支援専門員を含めた多職種連携をテーマとした研修会を企画したい。(田代主任)
- 看護の立場からはどうか。(畠山分科会長)
- 施設では口腔ケアは看護師よりも介護福祉士が中心である。看護協会でも、認定看護師による口腔ケアや嚥下の研修を提供しているが、直接ケアを担う介護福祉士を対象とした具体的で実践的な指導企画は有効であると考えます。(成田委員)
- 県としてはどうか。(畠山分科会長)
- 次年度の研修会の検討会には、秋田県介護福祉士会にも参加していただく予定である。(田代主任)
- 医科歯科連携の方向性についてはどうか。(畠山分科会長)
- 大学病院では、循環器等の医師が口腔外科を通さずに、開業医に紹介しているケースがあるが、術前の口腔管理として適切に行われているか、情報共有ができていないか、ははっきりしない。そこで、医師会と歯科医師会でルールを作り、システマティック

に進める必要がある。(高野委員)

- 医師会としてはどうか。(畠山分科会長)
- 医科歯科連携は、医科だと栄養機能などに目が向きがちで、口腔ケアは今ひとつという印象である。お互いが必要とする情報をコンパクトにまとめた連携ツールの標準化が必要である。パターンが多様化する弊害もあるので、現実問題としては医科側が口腔ケアについて理解を深めていく必要がある。(藤枝委員)
- これに対して、歯科医師会としてはどうか。(畠山分科会長)
- 連携ツールも含めて医師会と協議しながら、システムを考えていきたい。また、話は変わるが、中高生のむし歯の少なさはフッ化物洗口の効果であると思うが、県の認識はどうか。(藤原委員)
- 県も同様の認識であり、フッ化物洗口を含め、う蝕予防についての正しい知識や、口腔ケアの重要性について、今後も継続した普及啓発を実施していきたい。(田代主任)
- 県の障害者・児に対する取組については、どうか。(畠山分科会長)
- 障害者・児に対する歯科保健の取組は重要と考えている。昨年度と今年度は令和6年度介護報酬改定に伴う現場の要望もあり、介護関連の研修会を優先した経緯があるが、次年度は、歯科医師会との協議や、関連職種団体による検討会を踏まえて、障害者・児に対する研修会を検討したい。(田代主任)
- 歯科医師会としてはどうか。(畠山分科会長)
- 研修会については、専門家目線だけではなく、現場の生の声が聞きたい。理論と現実のすり合わせで、より理解が深まる。秋田県の高齢化率の高い地域で実践されている歯科医師の話要望する。(武田委員)
- 研修会のテーマや講師については県と協議して決めていきたい。(畠山分科会長)
- 医療的ケア児や障害児への口腔ケアが十分でない現状がある。県が率先して実態を調査し、採算の問題ではなく必要な支援を行うべきである。(藤原委員)
- 歯科専門職団体や他の関連団体とも協議し、研修会の開催も含め、どのような取組が良いのかを考えていきたいので、よろしくお願いします。(田代主任)
- よろしくをお願いします。(畠山分科会長)

#### 【その他】

その他、追加事項や意見はなし。

## 令和7年度秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会 出席者名簿

氏名	所属等	備考
1 石井 志保	秋田県保育協議会	
2 須田 広悦	秋田県社会福祉協議会 常務理事	
3 高野 裕史	秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科 病院教授	
4 武田 瞬	秋田県歯科医師会 理事	
5 成田 睦子	秋田県看護協会 常務理事	
6 畠山 桂郎	秋田県学校保健連合会 副会長	分科会長
7 藤枝 信夫	秋田県医師会 理事	
8 藤原 元幸	秋田県歯科医師会 会長	
9 船木 初美	秋田県栄養士会 副会長	
10 甫仮 貴子	秋田県歯科衛生士会 監事	欠席
11 安田 知明	秋田県小・中学校長会	

【敬称略、五十音順】

## 事務局（健康づくり推進課）

氏名	所属・職位等
1 鎌田 理香子	政策監
2 中村 賢哉	調整・健康寿命延伸チーム チームリーダー
3 田代 真康	調整・健康寿命延伸チーム 主任（歯科医師）
4 熊谷 祐子	調整・健康寿命延伸チーム 会計年度任用職員（歯科衛生士）